



独立行政法人  
 国立国際医療研究センター  
*National Center for Global Health and Medicine*

# 国府台

発行人 〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1  
 国立国際医療研究センター国府台病院長 上村 直実  
 TEL:047(372)3501 FAX:047(372)1858



2月

第10号

## [葛飾八幡宮の千本公孫樹]

市川市八幡に「葛飾八幡宮」があります。神社には、写真の国指定天然記念物の「千本いちよう(千本公孫樹)」、社殿前には往時を物語る遺物の「鐘楼」、社務所には「元亨の梵鐘」などがあります。

## 目次

◇ 臨床研究支援室を開設	.....	2
◇ 新医師の紹介・職場紹介(治験管理室)	.....	3
◇ 院内感染症研修会	.....	4
◇ 地域医療連携病院紹介・がん講演会のお知らせ	.....	5
◇ 第64回国立病院総合医学会	.....	6
◇ 市民公開講座	.....	8
◇ 肝臓病教室	.....	11
◇ 思春期精神保健対策コメディカル専門研修会	.....	12
◇ ノロウイルス感染症の知識と感染予防	.....	13
◇ 消防訓練・クリスマスコンサート	.....	14
◇ 中学生職場体験・餅つき大会	.....	15
◇ 工事の進捗状況	.....	16
◇ 私の大事な宝物・看護師募集中	.....	17
◇ 栄養一口メモ・ご寄附の受け入れ	.....	18
◇ 編集だより	.....	19

\*ホームページでは、カラーでご覧になれます <http://www.ncgmkohodai.go.jp>

## 臨床研究支援室を開設

臨床研究支援室 治験等協力者  
加賀 朋子

当院は、平成22年度から独立行政法人化し、さらなる医療サービス向上のために臨床研究を活性化することがセンター役割であり、また、目標のひとつとなり、そこで上村院長をセンター長とした『臨床研究・治験センター』を設置することになりました。

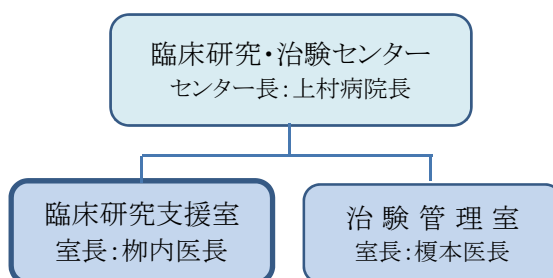
そして、当院の組織として従来から活動している「治験管理室」とは別に、さまざまな臨床研究をサポートするための部署として平成22年6月から「臨床研究支援室」の開設を準備し、11月よりオープンいたしました。

現在スタッフは、柳内医長のもと、臨床検査技師1名、看護師2名、事務2名の合計5名のスタッフでデータベース構築業務に携わっています。場所は、中央廊下の1階(旧お花屋さん)にあります。

### 臨床研究支援室のスタッフ



### 【組織図】



### 【業務内容】

当院において、医師等が計画する様々な臨床研究に役立てるため、受診される全ての患者さんのデータベースを作成することや臨床研究自体をサポートすることが臨床研究支援室の主な業務となります。具体的な業務は次のとおりとなります。

- ・当院を受診された時に得られた診療情報や各種検査結果といった医療情報の収集
- ・生活習慣などのアンケート調査の実施

一昔前、臨床研究といえば人体実験など悪いイメージを持たれている方々も多いと思われませんが、最近の臨床研究は倫理委員会で審査・承認されたものが臨床研究として実施されています。この倫理委員会では、患者さんの人権保護、個人情報の保護、研究成果による恩恵などが審査・承認されたもののみが臨床研究として認められます。

臨床研究支援室では、既に昨年11月より一部の診療科よりアンケート調査を開始して、現在約200名の方に御協力いただいております。今後は段階的に対象の診療科を拡げていく予定です。

また、臨床研究を希望される先生方から御連絡いただければ、候補者のリスト作成やインフォームド・コンセントの補助・各種データ収集・データベース化・集計業務のサポート業務も行っています。



データ収集の様子



データベース作成の様子

### 【関係者の皆さまへお願い】

#### 患者さんへ

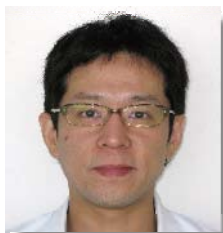
アンケート調査時には多くの質問にお答えいただくため、調査に時間がかかり、ご負担をおかけすることがあるかもしれませんが、今後の医療のため御協力のほどよろしくお願いいたします。

また、内容が個人的なことをお聞きするために、待合スペースではお答えにくい・・・という方には別室を用意させていただきます。その際には対応スタッフに申し出ていただくようお願い致します。

#### 各診療科の方々へ

アンケート調査に時間がかかってしまい、診療にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、出来る限り診療に支障がないように致しますので、御理解・御協力をお願い致します。

## 新医師の挨拶



(消化器科医師 松井 哲平)

12月1日に東邦大学医療センター大森病院より消化器科レジデントとして着任いたしました松井哲平と申します。

研修終了後3年間済生会横浜市南部病院にて内科・消化器一般の診療にあたり、帰局後は肝疾患、おもに肝細胞癌や門脈圧亢進症に対する血管治療を中心に診療にあっております。

これまでの経験を生かし、少しでも国府台病院でお役に立てればと思います。

ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、ご指導のほどよろしくお願いたします。



## 治験管理室の紹介

治験管理室治験主任(薬剤師)  
浦辺 登喜子

当院の治験管理室は2000年10月に設置されました。治験を行うにはGCP(Good Clinical Practice医薬品の臨床試験の実施の基準)という法律に基づいて行わなければなりません。1997年に新しいGCPが制定されました。それ以前の日本における治験は国際的には信頼性が少なく、認められていませんでした。そこで医薬品開発に関して、国際的にも信頼されるデータが必須となり、主だった医療機関に、治験業務をサポートする治験コーディネーター(Clinical Research Coordinator 以降CRCとする)が配属されるようになりました。CRCは依頼者、担当医師、被験者および家族、各関連部署との間を取り持つ役目を担っています。

現在では各国同時に開発にとりかかる国際共同治験も多くなり、当院でも例外なく数年前から実施しています。国際共同治験は日本国内だけの治験とは異なり、ICH-GCPという国際的なルールのもとで行われます。国際共同治験では治験開始前に、CRCが規定のトレーニングを受けることが求められます。治験が始まるとWeb上での被験者の登録、Web上での治験薬割り付け、検体の海外発送、心電図の波形の送信を行います。また、全て英文の電子報告書を作成し、疑義照会があれば回答するといったことを行っていて、非常に手間がかかります。もちろん、日本国内だけの治験も実施していますが、最近では国際共同治験が増える傾向にあります。

現在進行中の治験と予定されている治験について下記に示します。2010年度に終了した7課題を総計すると、2010年度の実施課題数は27課題となります。これらのうち国際共同治験は6課題です。

また治験は、事務的な業務も煩雑で、ひとつの治験を行うのに治験開始前、実施中、終了時とそれぞれ膨大な資料が発生し、その書類の作成・管理も大変な作業となります。

治験管理室のメンバーは、室長(精神科医長)、事務局長(薬剤部長(代)副薬剤部長)、事務局次長(副看護部長)各1名、常勤CRC2名(薬剤師治験主任、看護師各1名)、非常勤CRC2名(看護師)、非常勤事務員、派遣事務員各1名です。現在のプロトコルからすればCRCの人数は少なく、CRCの負担はかなりのものがあります。治験は各関連部署が連携しながら行わなければ出来ないものです。今後とも治験業務に理解と協力をお願いします。

## 治験管理室のスタッフ



## 治験課題数

疾患名	課題数	
	進行中	今後予定
統合失調症(小児を含む)	5	1
アルツハイマー	1	
うつ病	2	
摂食障害	1	
肝炎	4	1
肝性浮腫	1	
注意欠陥・多動性障害		2
双極性障害		2



保健所主催の院内感染症研修会レポート



平成22年11月24日(水曜日)19時から市川市文化会館において院内感染症研修会が開催されました。

この研修会は市川保健所が企画・主催されたものですが、保健所のご配慮により当院が共催させて頂き、そして千葉県医師会・市川市医師会・浦安市医師会の後援により実施されたものです。

聴講対象者は病院、診療所、社会福祉施設の医療関係者が対象ですが、対象地域は市川保健所管内のみならず広く他の保健所管内からも参加されており、約300名の方々が聴講されました。

医療機関は、病原体に感染した患者と感染への抵抗力(免疫)が低下した患者が、同一施設内にいること、また、抗生物質や消毒薬の多用から薬剤耐性病原体が多い環境であることにより、感染しやすい環境にあります。

さらに、免疫力の高い保菌者の来院によって院内感染が引き起こされることが多いほか、患者から患者へと感染する以外にも、医師や看護師などの医療従事者が病原体の運び役になっている場合があります。

これらのことから医療機関は、感染症や伝染病の集団発生リスクが高く、院内感染の未然防止はどの医療機関にとっても常に重要なテーマとなっています。

医療機関の多くは、専門の部門や医療チーム(感染制御チームなど)を設けて院内感染の発生防止に努めていますが、集団発生してしまうと社会問題となったり、対策に不備が認められた場合などには、医療訴訟が起きるケースもあります。



座長の久保秀一 保健所長



講演風景



挨拶する上村直実 国府台病院長

講演1は、国立感染症研究所の荒川先生から、アシネトバクター菌などの院内感染対策上注意すべき新型(アシネトバクター菌など)の多剤耐性菌の特徴や世界の多剤耐性菌に関する最新情報を講演いただきました。

講演2は、国立国際医療研究センターの照屋先生からは、自院で発生したMRSA・多剤耐性緑膿菌・アスペルギルスに対する感染防止対策に対する取り組み事例の発表をいただきました。

それぞれの講演の後に聴講者から積極的な質疑応答もあり、当研修会も21時を大きく廻り盛大に終了となりましたが、大変貴重な研修会であったと感じています。

最後に、当研修会を企画・運営していただいた市川市健康福祉センター(市川保健所)の皆様方にお礼申し上げます。



講演 1  
「多剤耐性菌について」  
講師: 国立感染症研究所  
細菌第二部長  
荒川 宜親 先生



講演 2  
「院内感染対策の現状と対策」  
講師: 国立国際医療研究センター  
エイズ治療・研究開発センター医長  
照屋 勝治 先生

## 地域医療連携病院のご紹介

福谷内科医院  
院長 福谷 英成

福谷内科医院は、一般内科として、子供から年配の方までのプライマリーケアを中心に診療しております。

いつでも患者さんが気軽にお体のことを相談できるような医療機関になればと日々診療に心がけております。

当院では特殊の医療機器を揃えていないので、精密検査は国府台病院等の病院にお願いしております。国府台病院の先生方にはいつも大変お世話になっており感謝しています。

当院で出来ることは些細なことですが、少しでも地域医療に貢献できればと思います。努力していきたいと考えています。

宜しくお願い致します。



- ◇ 住 所  
市川市中国分 3-12-7  
TEL 047-373-5657
- ◇ 診療科  
内科・在宅医療
- ◇ 各種予防接種
- ◇ 市川市が実施する特定検診  
肺がん検診  
大腸がん検診

## 保健所主催・国府台病院共催の講演会が予定されています

### がん講演会のお知らせ

日 時 : 平成23年2月24日(木) 19時00分～21時00分

場 所 : 市川市文化会館 小ホール

プログラム

1. 肝がんの予防 — ウイルス性肝炎の治療と予防  
国立国際医療研究センター 肝炎・免疫研究センター長 溝上雅史
2. 胃がんの予防 — ヘリコバクター・ピロリの除菌を通じた胃がんの予防  
国立国際医療研究センター 国府台病院長 上村直実

受講対象 : 医療保健従事者及び一般市民

※申し込み方法は、氏名・住所・電話番号を明記のうえ、市川保健福祉センターへ電話又はFAXで、2月16日までに申し込みのこと。

参加費 : 無料

主 催 : 市川健康福祉センター(市川保健所)

共 催 : 国立国際医療研究センター 国府台病院

後 援 : 千葉県医師会、市川市医師会、浦安市医師会、  
東京歯科大学市川総合病院、順天堂大学医学部附属浦安病院

## 第64回国立病院総合医学会 (福岡)

平成22年11月26日(金)・27日(土)、福岡国際会議場において第64回国立病院総合医学会が開催されました。

本学会は、国立高度専門医療センター、国立病院機構施設、ハンセン病療養所の職員など約6千名が参加する大規模な学会です。国府台病院から参加された中から7名の方々に学会参加報告をいただきました。



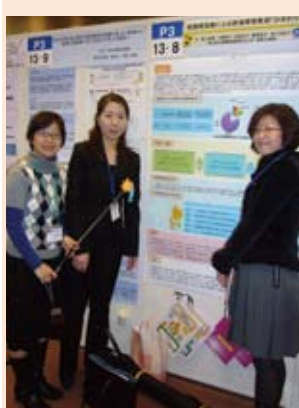
### 28病棟副看護師長 濱上 美穂

国立病院総合医学会には28病棟看護師3名が参加しました。当日は、12月下旬並みの寒さの中、全国から研究・業務改善など成果が発表されました。

私達は、患者・家族への支援として導入した摂食障害教室「ひまわり」について、導入から試行までの経過をポスターセッションで発表を行い、発表には多くの医療関係者が集まったことから摂食障害への関心が伺えました。

さらにポスターセッションでは、ベストポスター賞(各セッションおよそ10題中1題が選ばれる)があり、私達の発表した『他職種協働による摂食障害教室「ひまわり」の導入』が選出されました。国府台病院で独自に作りあげた支援を医療者だけでなく、患者・地域に情報発信を行うことが私達の役割と考え、今後とも継続して役割を果たしていきたいと思っております。

(筆者は写真中央)

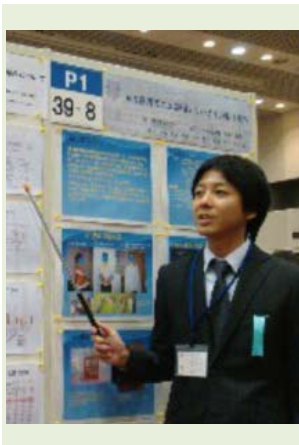


### 理学療法士 玉田 良樹

国立病院総合医学会において、「筋萎縮性側索硬化症におけるリハビリテーションワーキンググループ(リハWG)の取り組み」についてポスター発表をしました。リハWGは筋萎縮性側索硬化症(ALS)のリハビリを今まで以上に発展させたいと考えていた理学療法士を中心に立ち上げられたセラピスト(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)の組織です。

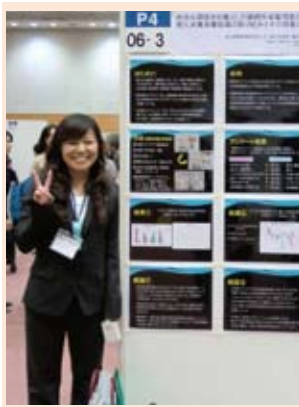
今回の発表は、勉強会参加者にALSのリハビリについてアンケート調査を実施し、その報告を行いました。ALSは難病中の難病と言われるだけあり、どのセラピストも悩みながら臨床を行っていることが分かりました。また、評価項目・治療方法も多種多様であることが分かりました。アンケート結果をふまえ、ALSリハビリテーションのガイドライン作成に向けて取り組んでいくという結論です。発表後にはALSのリハビリについて多くの質問があり、この分野の必要性を再確認しました。

発表に際しては、当院から学会に参加された多くの方々に発表を聞いて頂き大変心強かったです。ありがとうございました。



### 管理栄養士 蒲池 祐子

臨床栄養管理部では「統合失調症等患者さんを対象とした継続外来集団及び個人栄養食事指導の取り組みとその効果について」の演題にて参加しました。デイケア利用患者さんの多くは、不規則で偏った食生活により生活習慣病を合併しており、2009年2月から毎月1回、集団栄養食事指導を実施しています。必要栄養量、栄養バランスなどのテーマでわかりやすい参加型の指導を行い、その結果、規則正しい食生活の意識づけができ、多くの方に体重減少、生化学検査数値改善が見られました。現在はデイケアプログラム終了後であっても、生活習慣の変化に対応できる食習慣の確立を目指し継続的に外来個人栄養食事指導でfollowしています。今回の学会参加により多くの研究発表を見学することができ大変貴重な体験をさせていただきました。私は、初参加で緊張しましたが、室長を初め先輩方のアドバイスとご協力により無事終了することができました。今後はこの経験を生かし日々の業務に役立てていきたいと思っております。





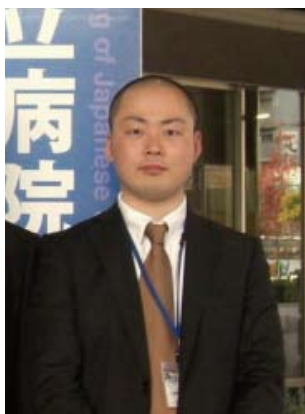
### 臨床検査技師 長井 俊道



国立病院総合医学会において「Streptococcus bovisによる感染性心内膜炎の一症例」について発表しました。内容は、不明熱で緊急入院された患者さんの血液培養からS.bovisが分離され、感染性心内膜炎(IE)と診断された症例です。

今回、はじめて国立病院総合医学会に参加して他職種の発表を聴講し、臨床検査技師の目線からだけではない医療の見方や考え方などいろいろな視点からのチーム医療を学ぶことが出来ました。特に印象に残ったのは臨床検査部門のシンポジウム「新時代の医療に貢献できる臨床検査技師とは」でした。臨床検査技師は検査データの提供だけでなく、新しいことに積極的に取り組み臨床現場への進出を提言されていました。今後、積極的にチーム医療に取り組み病院に貢献していきたいと実感しました。

### 臨床検査技師 田島 秀昭



国立病院総合医学会に参加しシンポジウムなどを聴講してまいりました。特に印象深かったのは「新時代の医療に貢献できる臨床検査技師とは」という講演で岡山医療センターの田中信一郎先生が「チーム医療が推進され、医療職種間のスキルミックスが展開される中で自分の役割(仕事)に責任を持つことが重要」と言われていたことは自身の仕事内容とも重なることが多く、日々自己研鑽に励み臨床現場に参画して行くことが重要だと改めて感じました。

また、私自身のポスター発表では、「膵管内乳頭粘液性腫瘍の1例:膵液細胞診を中心として」と題して、当院で経験した膵管内乳頭粘液性腫瘍を症例として取り上げ、細胞診を行う上での注意点やポイントなどを特徴的な細胞像と共にまとめ発表しました。

最後に発表するにあたりポスター作成等ご指導いただきました皆様に深謝いたします。

### 臨床検査技師 佐戸 由紀子

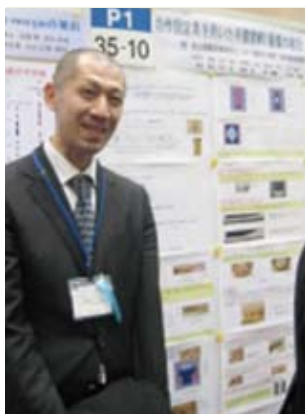


国立病院総合医学会に参加いたしました。初日は寒かったものの、ジャンプ‘嵐’のペイントが施された飛行機に乗り幸先の良いスタートを切ることが出来ました。

私は『超音波検査を契機に発見された腫瘍形成型肝内胆管癌の一例』という演題でポスター発表させていただきました。現在、生理検査を担当し超音波検査に携わる機会があり、決められた時間内に正確な情報を臨床に返すことの難しさを感じながら日々仕事をしています。超音波画像から得られる情報は非常に多く、腫瘍性病変を発見した場合、超音波検査だけで診断が可能なものから、疾患名までは特定できない困難なものなど様々です。超音波画像から判断するには、より高度な技術、知識の向上が必要であると痛感しています。

この度、学会発表をするにあたりご協力下さいました皆様に深く感謝いたします。

### 診療放射線技師 持木 和哉



国立病院総合医学会に参加し、自作固定具を用いた手関節MRI撮像の検討をテーマとして発表いたしました。

手関節のMRI検査は特殊なコイルを手首に巻いて撮影します。手関節の画質は、このコイルの巻き方や、コイルの置く位置などによって変わってきます。つまり、撮影する際のポジショニングの仕方が非常に重要になってきます。また、MRIは大変動きに弱い検査ですので、検査中に手が動いてしまうと写真がぶれた画像になってしまいます。今回、これらの要因に基づき、写真の写りが良くなるのはどこなのかを検討し、導き出した結果に基づいた当院オリジナルの固定具を作成しました。作成した自作固定具を使用することによって、手関節部位の固定精度並びにポジショニングの精度を向上させることができるようになりました。

今回、会場にて、多くの診療放射線技師の方々と討論することができ、今後とも情報共有を積み重ね、より良い検査を推進できるよう、放射線診療部一同、検討してまいります。

# 市民公開講座の開催

国府台病院では、市民の皆さまのために公開講座を定期的に行っていますが、昨年11月から12月にかけて開催した3つの公開講座について報告いたします。今後とも幅広く一般市民の方々に講演会を計画し地域に貢献したいと考えています。

NO.1

## 在宅介護における移動介助と皮膚のケア

日時 平成22年11月6日(土)

場所 市川市男女共同参画センター

講師 皮膚排泄ケア認定看護師 小岩井 慶子・看護師 宮地 麻美

看護師 小岩井 慶子

昨年の11月6日、床ずれをつくらない為の皮膚のケアと介護技術についての市民公開講座を開催しました。天候は晴れのため、町のあちこちがお祭りで賑わっていました。そのような中、公開講座にお集まりいただいた方々には深く感謝いたします。

今回の講座内容は、「介護される人が、床ずれが出来ないようにどのような皮膚の手入れをされればいいのか」また、「介護する人がより安全で楽に体位変換や車椅子への移動をどのようにすればいいのか」などの実技・演習を参加者の方々と行いました。紙面では、その中の一部をご紹介します。

### 1. 床ずれをつくらない為の皮膚のケア

床ずれの原因は、長い時間同じ姿勢でいることで皮膚に圧迫とズレが起きて発生すると言われています。しかし、同じ状況でも床ずれがしやすい人と出来ない人がいます。出来やすい人とはどのような人でしょうか？

寝たきりの方や低栄養の方は骨が突出した所がベッドとすれて床ずれが出来やすくなります。さらに御高齢の方、抗がん剤治療をしている方、糖尿病や腎臓病がある方の皮膚は、守る皮脂が少なく皮膚が乾燥しています。そのため皮膚のバリア機能を失い床ずれが出来やすい状態になります。それを補うためにスキンケアが必要です。

- ①身体をきれいにしましょう。
- ②保湿(水分・化粧水、セキューラML、ザーネなど)をしましょう。
- ③保護(水分を皮膚に閉じ込める脂分・オリーブオイル、サニーナ、ワセリン)を使用します。

これで皮膚は健康な状態に近づく事が出来て、床ずれの予防となります。



ザーネクリーム



サニーナ

### 2. 介護技術

移乗動作とは、「人間が日常生活動作の中で乗り移りする動作をいう。」介護者は常にその動作を介護しています。なぜ人は起きたり、座ったりすることが必要なのでしょうか？それは脳への刺激によりよい覚醒状態を促したり、全身の筋肉増強や骨の強化を促したり、呼吸・循環機能の維持・向上を図り、精神活動の低下を防ぐからです。その為、寝たきり状態にしないように働きかけが必要です。しかし、介護者が、適切な介護技術をマスターしなければ、腰を痛めたり、疲れ果てて、継続的な介護ができません。体の重心をうまく利用して介護することが必要です。また、「移座えもんシート」などを利用すると楽に移動できます。



移座えもんシート使用例





## 拒食・過食など食行動にひそむ問題について

日 時 平成22年12月4日(土)

場 所 市川市男女共同参画センター

講 師 石川俊男診療部長(心療内科)・看護師 藤原 総子・看護師 長坂 久乃

28病棟看護師長  
浦川 由紀子

12月4日(土)14時から市川市男女共同参画センターにおいて、拒食・過食をテーマとする市民公開講座を開催しました。

拒食・過食とは聞きなれない言葉かも知れませんが、これらが重篤化すると患者自身だけでなく家族にも大きな影響を与える疾患です。

今回、医師・臨床心理士・管理栄養士・看護師・ソーシャルワーカーの視点から、現在の傾向と対応について次の4つのテーマのお話をさせていただきました。



- ①臨床心理士:「社会生活とストレスと食事」
- ②管理栄養士:「気がついてますか?」
- ③看護師 :「心療内科とは・看護師の役割」
- ④ソーシャルワーカー :「その人らしい生活を支えるために」

今回の講座に参加してくださった方の背景は様々で、悩みをお持ちの方や、現在治療中の方、ご家族の方、また興味を持たれた方々でした。講演の後に参加者の方々と質疑応答を行いました。

- Q. 体験入院はどのような方が対象となりますか?  
 Q. 体験入院の結果・効果にどのようなものがありますか?  
 Q. 「ほめる」ことが大切であることはわかるが実際は難しい。どのようにしたら相手(家族)に届くのですか?  
 Q. リラックス方法を具体的に教えてください。

など、講座でのテーマ内容からの質問をいただきました。

このような悩みを持つ方や家族の方へ様々な支援を行いたいと、国府台病院では摂食障害教室「ひまわり」を平成22年1月から開始をしました。不定期ではありますが月2~3回行っています。今後も多くの方に利用していただきたいと思います。詳細は病院内のポスターをご覧ください。参加は一部お会計が発生します。

興味のある方は、一度、心療内科外来へご連絡くださいますようお願いいたします。

## 講師及び公開講座スタッフ



NO.3

## 日本人になぜ肝炎が多いか 肝炎治療と国府台病院の役割

日 時 平成23年1月22日(土)  
場 所 市川市男女共同参画センター  
講 師 肝炎・免疫研究センター長 溝上 雅史

36病棟看護師長  
町田 正信



1月22日(土)14時から市川市男女共同参画センターにおいて、肝炎治療をテーマとする市民公開講座を開催しました。

講演は、国府台病院肝炎・免疫研究センター長の溝上雅史が講師を務めました。



溝上センター長

今回のテーマは、「日本人になぜ肝炎が多いかー肝炎治療と国府台病院の役割ー」と題して講演が行われました。講演は、日本における肝炎治療の状況に理解を高め、国府台病院の肝炎診療体制について理解を頂くことをねらいとして企画したものです。

当日は、土曜日の貴重な時間帯にも関わらず、約50名弱の方々にお集まり頂きました。

まず始めに「肝臓の性質や特徴」について説明があり、続いて「肝炎ウイルスの種類」、「なぜ日本人に肝炎が多いのか」、「肝炎治療の最新情報」、「国府台病院の肝炎治療と肝炎研究にかかる役割について」と話しが展開されました。

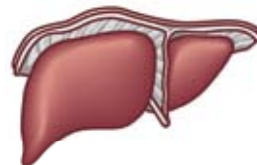
日本住血吸虫の発症と治療の中でのC型肝炎が広まったこと、また、戦中・戦後の覚せい剤使用との関係、さらに血液製剤で感染が広まったこと等、日本の昭和史の一面と共に分かり易く話されました。そして、肝炎治療ではインターフェロンとリバビリンによる治療の有効性、また、遺伝子検査により治療精度を高められることなどについて説明があり、医療関係者でない一般市民の方々にも非常に分かりやすいお話しでした。

講演の最後には、「国府台病院の肝炎治療と肝炎研究にかかる役割について」説明があり約1時間の講演があつと言う間に終了しました。

講演の後には15分の質疑応答がありました。参加者からは肝炎治療と血液検査結果について、また、C型肝炎の型と重症度などについての質問が出され、これも講師から分かりやすい回答がありました。

市民公開講座のご案内は、今回も市川市広報に掲載依頼し、また地域連携室からは近隣病院へもご案内しました。会場の男女共同参画センターには市川市から大変便宜を図ってもらっていますが、市内の方でも会場の場所が分かりづらいというお問い合わせが多数ありました。中にはチラシに会場の見取り図を希望する意見があり、今後の講演には是非ご意見を反映したいと考えています。

### 公開講座スタッフ





## 第1回 肝臓病教室の開催

日時：平成22年12月4日(土) 14時00分～16時00分

場所：国府台病院 旧看護学校2階

プログラム

**1. 患者さんが誤解しているC型肝炎**

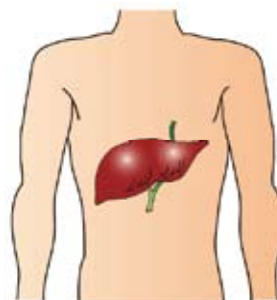
肝炎・免疫研究センター肝疾患先端治療研究室長 村田 一素

**2. 要注意！“普通食”の落とし穴**

栄養管理室長 河野 公子

**3. これからのC型肝炎治療**

肝炎・免疫研究センター 肝炎情報センター長 正木 尚彦



肝炎・免疫研究センター

肝疾患先端治療研究室長 村田 一素

平成22年12月4日(土)14時から国府台病院旧看護学校2階において第1回「肝臓病教室」を開催いたしました。

今回は、「患者さんが誤解しているC型肝炎」(村田肝疾患先端治療研究室長)、「要注意！“普通食”の落とし穴」(河野栄養管理室長)、「これからのC型肝炎治療」(正木肝炎情報センター長)の3講演(各30分)が行われ、それぞれ活発な質疑応答が行われました。

講演終了後には、患者さんやそのご家族がお持ちになられた検査結果などの資料に基づいて当院の3名の医師が個別にお話しさせていただきました。

第1回にも関わらず46名の方々にご参加いただき、ご好評をいただきました。

当肝臓病教室は、肝疾患患者さん及びそのご家族を対象とし、肝疾患への理解を深め、患者さんの過度な不安を取り除き、さらには診断・治療に関する新しい情報をご提供するために、肝炎・免疫研究センターを中心として、看護部、臨床栄養管理部、薬剤部、中央検査部、そして管理課と、国府台病院スタッフの総力を結集して企画されたものです。今後もおよそ3ヶ月に1回の割合で開催し、当地域の皆様に関わる様々な情報を提供して参りたいと思っております。

なお、第2回「肝臓病教室」は、平成23年3月12日(土)に国府台病院内大会議室にて開催する予定にいたしております。次回のテーマは、「肝臓の診断と治療」、「肝疾患患者の看護」、「B型肝炎の最新情報」(いずれも仮題)です。

さらに、当肝炎・免疫研究センターでは、より良い医療を提供するために肝疾患に関わる様々な研究とともに肝疾患に関わる様々な治験が行われています。(詳細は肝臓担当医師にお尋ねください)

今後の「肝炎・免疫研究センター」にご期待下さい。



### 次回の肝臓病教室 (お知らせ)

日時：平成23年3月12日(土)  
14時～16時

場所：国府台病院内大会議室

テーマ

- ・B型肝炎の最近の話題
- ・肝疾患で入院したら、どんなことをされるの？
- ・ラジオ波焼灼療法ここまできた肝臓最新療法

## 思春期精神保健対策コメディカル専門研修会の開催

36病棟副看護師長  
大嶺 靖子

日時：平成22年11月8日(月)～9日(火)

場所：〈1日目〉日経大手町セミナールーム2

〈2日目〉国府台病院大会議室

研修課程：厚生労働省こころの健康づくり事業

「思春期精神保健対策コメディカル専門研修」

研修対象：思春期精神医療に興味を持つ看護師・保健師その他コメディカルスタッフ

平成22年11月8日(月)・9日(火)の2日間に渡り、「思春期精神保健対策コメディカル専門研修」を実施しました。

この研修は、平成22年度厚生労働省「こころの健康づくり事業(思春期精神保健研修事業)」の一環として実施したものです。

児童思春期精神科を受診する子どもは、増加の一端をたどっています。医療現場では、発達障害を含めた精神障害を抱える子ども、被虐待児、ひきこもり児、複雑な家族環境の影響を受けている子どもなど、医療者が対応すべき対象は多く、医療者側に求められる援助技術も多様化・高度化しています。

そこで、この度、看護師・保健師、その他コメディカルスタッフを対象にして、児童思春期精神医療に必要な専門知識の習得を目的とした研修を初めて企画しました。

当該研修の募集期間は大変タイトな短期間でありましたが、定員50名のところに153名の応募があり、各都道府県バランスを調整し最終的に63名の受講者が決定されました。

研修1日目は、大手町の日経大手町セミナールームを会場とし、講師は厚生労働省社会援護局の北村薫子課長補佐、聖路加看護大学の萱間真美教授、国府台病院の齊藤万比古精神科部門診療部長、国府台病院36病棟高橋美穂看護師、国府台病院本部薫臨床教員(副看護師長)他の講義がありました。講義内容は、「児童思春期のメンタルヘルス」「育ちゆく子どもへの看護」「児童精神科病棟における治療と看護」といったもので、みな興味深く真剣な表情で聞いていました。

研修2日目は、国府台病院の施設見学(病棟と分校)、その後にグループワークを行ない、地域や臨床の現場での悩みや取り組み等の情報共有し、皆が同じような悩みを抱えながら頑張っていることが伝わってきました。

昨今は思春期医療へのニーズが高まっているにも関わらず、専門の医師や医療機関が少ないのが現状です。この研修を通して、参加された医療関係者が今後全国で活躍されていくことを期待しております。今後も益々、この国府台病院から情報発信をしていきたいと思っています。



全体講義

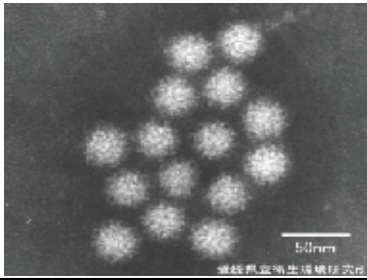


齊藤部長の講義



グループワーク





ノロウイルスの電子顕微鏡写真

静岡市保健所は28日、私立長沼保育園で園児28人と職員3人が下痢や嘔吐などを訴えたと発表した。・・・一部の園児からノロウイルスを検出した。全員快方にむかっているという。

(2010年12月29日毎日新聞より抜粋)

ノロウイルスの流行期は冬場です。ウイルスは人の腸内で増殖し、下痢、嘔吐を主徴とする胃腸炎を起こします。乳幼児から成人まで幅広く感染し、一般に健康な人では症状は軽症ですが、抵抗力の弱い乳幼児や高齢者など免疫力の低下した人では重症化して死亡することもあります。

感染力が強く、人から人に感染し、保育所、幼稚園、小学校などの小児や病院、老人ホーム、福祉施設などでも集団感染することがあります。

### 感染経路

経口感染(口から入って腸管で増殖)であり、

- ①ウイルスに汚染されたカキなどの二枚貝を生で食べた場合
- ②調理台やふきんにウイルスが残っていて、そこで調理したものを食べた場合
- ③感染者の便、嘔吐物を処理するときに手に付着し、その後、口の中に入る場合
- ④絨毯などについた吐瀉物が乾燥し、飛散したウイルスを吸って、口の中に入る場合

などがあります。

### 症状

・潜伏期間は、24時間から48時間です。  
・主症状は、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛で、発熱は軽度です。

通常、この症状が1日から2日間続いた後、治癒し、後遺症はありません。

乳幼児や高齢者では、嘔吐、下痢により水分を失い脱水症状を起こし重症化することがあるので注意が必要です。

### 治療方法

ノロウイルスに効果のある抗ウイルス剤は無く、ワクチンもありません。

脱水症を防ぐには水分を補給する必要があり、脱水症状をおこしたり体力を消耗した場合は病院で補液などの処置が必要となります。

下痢止め薬は通常使用しません。

### 予防方法

感染予防には、食事前、トイレの後は必ず手洗いをする事です。

下痢、嘔吐の症状があり感染が疑われる人が調理するのは止めましょう。

集団感染が発生するのは、感染者が手洗いが不十分なまま調理し、その食事を介して感染するケースが多くあります。

感染者は、症状が治まっても感染後1週間近くはウイルスを排出するので、感染者もこまめに手洗いをすることです。

免疫力の低下している人がカキなどを食べる場合は、しっかりと加熱してから食べるようにします。

### 二次感染防止には

ふきん、おしぼりの消毒には塩素系洗剤を使用します。

例えば市販のものならば、キッチンハイターなどで

す。除菌と表示された使用方法で薄めて調整し、浸す時間も確認します。

塩素系洗剤は、金属類は腐食しますし、衣類は色落ちがするので使えません。成分は次亜塩素酸ナトリウムで、通常0.1%で使用します。0.1%に調整したものは、時間がたつと次第に塩素が蒸発し効果がなくなるので作り置きはできません。使う前に作成します。

まな板は熱湯消毒も有効です。

トイレが汚染された時や嘔吐物の処理には、まず使い捨ての手袋とマスク、エプロンを使用します。汚物をペーパータオルなどで拭き取ります。つぎに次亜塩素酸ナトリウム(0.1%)で浸すように拭きます。金属が有る場合次亜塩素酸により錆びてしまうので、次亜塩素酸ナトリウムで拭いたあと10分後には水拭きが必要です。使用したものはビニール袋に入れて廃棄します。なお、その後の手洗いを忘れないことです。

### おわりに

細菌が原因の食中毒は夏に多いのですが、ノロウイルスは年末のころ流行する冬の食中毒です。

子供が突然嘔吐し、その処理をした家族の人が翌日相次いで吐き気をもよおした、という話をよく耳にします。

このウイルスは感染した人が吐いた物や便の中に大量に含まれています。嘔吐物の処理を適切に行うこと、それと手洗いを十分することが予防になります。

ウイルスは目に見えないだけに怖い存在ですが、手に付いたウイルスは石鹸で洗い流すことができます。親指の洗い残しがないようによく洗いましょう。



## 消 防 訓 練

管理課 管理専門職  
南雲 文明

12月6日(月)、市川市西消防署の立ち会いのもと、病棟1階(12病棟食堂)からの出火を想定した消防訓練を実施し、多くの職員が参加しました。14時00分、12病棟看護師の「訓練火災発生」の大きなかけ声で訓練が始まり、消防署への訓練火災通報と院内放送、患者さんの避難誘導、消火器及び屋内消火栓による初期消火活動等の訓練を行いました。

その後、朝日外来診療部長による非常時での毛布を使った担送訓練、消防署の指導による消火器の実地訓練及び病棟2階(16病棟)から実際に救助袋を使った避難訓練を行いました。

最後に市川市西消防署より、「今回の訓練結果を踏まえ、実際にあった場合にどう行動すればいいか、日頃から一人一人が意識し、今後とも災害防止に努めていただきたい。」との講評をいただきました。

今後も引き続き、院内の防火防災対策に努めるよう、参加した職員一人一人が更に意識を高揚させ訓練を終了しました。



## クリスマスコンサート

教育担当看護師長  
田中 且子

年の瀬迫る12月22日、世の中がクリスマスモード一色に染まる中、当院でも職員手作りの“クリスマスコンサート”が行われました。

ここ数年行われていた医師・研修医を中心とした「アンサンブル国府台」によるコンサートに、今年は看護部とリハビリスタッフがバックアップし患者さんの心が和む暖かなコンサートを企画し準備を進めてきました。岡田団長(脳神経外科医師)率いる「アンサンブル国府台」は、田村リーダー(心療内科医師)を中心に、昨年のメンバーに加えて看護師や臨床研究支援室の職員など新たなメンバーを迎えての演奏となりました。また、精神科医師、看護師を中心にバンド好きの仲間が集まって結成された「フレミングス」は、ボーカル安井(精神科医師)の甘い歌声に会場全体が魅惑されました。オープニングから登場予定だった松本看護師長率いる手術室看護師「ハンドベルシスターズ」は、当日の緊急手術を無事に終え、関係スタッフはハラハラドキドキの中、見事にクリスマスコンサートの“オオトリ”を飾ってくれました。(実は物足りなくて、コンサート終了後も玄関ホールで演奏していました)

そして、私たちスタッフもサンタクロースに変身し、ご参加いただいた患者さん達にも「キャンドルサービス」ならぬ「蛍光ブレスレット」で会場を盛り上げていただきました。

どのグループも、結成から1カ月余り、仕事を終えて限られた時間での練習でしたが、当院で療養されている患者さん達に少しでも喜んでいただけたら…との思いが、伝わったのではないかと自負しております。最後には、患者さん方からたくさんのアンコールや温かいお言葉をいただき私たち職員もとても幸せな気持ちになりました。

また、今年のクリスマスにみなさまと一緒に素敵な時間が過ごせることを楽しみにしています。





## 中学生の職場体験を受け入れて

12病棟副看護師長  
三浦 亮子

一昨年9月に、市川市立第一中学校の授業「12歳のハローワーク」で看護師の仕事について話をさせて頂きました。そのことがきっかけで、平成22年11月15、16日の2日間、同校校長の依頼を受け、2年生2名(女子)の職場体験を受け入れました。

学習の目的は、職場体験を通して、「働くことの意味や楽しさを知る」、「働くことの尊さを肌で感じる」、「職場の人間の大切さを知る」などです。

私たちは、自身の子供を思い描き「こんな感じかしら？」などと話しながら、ワクワクした気持ちでその日を向かえました。

当日の朝、白衣姿で現れた女子中学生にびっくり！なぜなら白衣姿が似合っていて、まるで新人看護師の様でしたから・・・。

さて、病棟での体験は、看護師の一日の仕事の流れの説明から始まり、ベッドメイキングの見学、実際に患者さんのリハビリや検査の送迎、洗髪後のドライヤーで髪を乾かす行為を一緒に体験してもらいました。また、普段は目にする事のない救急カートの説明や点滴のある処置室に入り真剣に話をきく姿が、とても印象的でした。また、看護師の仕事だけではなく、他部門(リハビリ、放射線科)との連携に触れた事で病院の中で働く多くの職種について知ってもらえたと思います。

二日間の体験を通して、

①病院は忙しく患者さんと話をしている時間がないというイメージがあったが思っていたより静かだった。

②看護は人間相手なので気を使った。相手の立場を考えなければと感じた。

③看護師の話し方が優しく安らぐ声かけだった。

などの感想が聞かれました。中学生の素直な目線に、私たちも初心を思い出しました。そして将来の看護師の卵に期待し終わりました。



職場体験をした2名の中学生

## 餅つき ～児童精神科病棟の行事～



36病棟副看護師長  
大嶺 靖子

児童精神科病棟では、去る12月3日(金)に餅つき大会が行なわれました。

当日は、朝まで大雨が降り続いたため、病棟ホールでの餅つきとなりました。

初めて臼、杵で餅つきを体験された子どもたちは、緊張と喜びで大はしゃぎでした。雑煮やきなこ餅、あんこ餅、磯辺餅をみんなで協力して作り、どれも格別の美味しさでした。



## 工事の進捗状況

事務部長 佐々木 仁史

新病棟及び肝炎・免疫研究センター整備工事は、建築許可や埋蔵文化財調査などで当初計画より遅れましたが、平成23年12月の完成、平成24年4月オープンをめざして急ピッチで進めています。

現在、現場には大型クレーン(オレンジ色350トン・青色100トン)が入り、PC工法で組み立てられています。このPC工法とは、Precast Concrete(プレキャスト・コンクリート)の略で、建物の基本となる部材を最新設備の整った工場で製造した後、大型トラックで搬入し現場で躯体を組み立てる工法のことです。現場でコンクリートを打つ従来の工法(RC工法)に比べて、品質が一定しており、また、工期が短縮できるなどのメリットがあります。さらには、耐震性や耐火性、耐久性、遮音性などにも優れていると言われています。

写真のオレンジのクレーン(写真前方)の場所は、新病棟を立ち上げ中であり、病棟北側工区(左側)の躯体は3階まで立ち上がり4階部分にかかっていますが、躯体が最上階まで立ち上がるのは本年2月中旬になる見込みです。引き続き、病棟南側工区(右側)も基礎躯体工事が終わり順次躯体が立ち上がることとなります。また、青のクレーン(写真後方)の場所は、肝炎・免疫研究センターの位置にあり、現在、基礎躯体工事が終わり躯体を立ち上げていますが、最上階まで立ち上がるのは本年4月中旬になる見込みです。

躯体が完了した後は、内装工事等が行われます。

当院は、国の施策の方針変更等の影響により施設全体が老朽化したままで、医療環境が十分でなくご迷惑をお掛けしておりますが、病棟完成後は順次外来棟整備も進めてまいります。工事にあたりましては、患者さん及び近隣住民の皆さまに騒音・振動などで多大なご迷惑をお掛け致します。引き続き、何卒ご協力頂きますようお願い申し上げます。

工事現場 (H23. 1. 28撮影)



正面玄関からクレーンが見える



児童精神科病棟の後方にクレーンが見える



## 私の大事な宝物

～看護師手記～

12病棟看護師

荻原 芳子



筆者は向かって左から3番目

私は、看護師として病院勤務を始めて今年で42年目になり、いよいよ平成24年春には定年を迎えることとなります。

長い看護師人生の中で多くの人との様々な出会いがありました。もちろん楽しく充実した毎日ばかりではなく、辛いとき、悲しい時、もう仕事を辞めようかと思いつめた時もありました。しかし、今まで看護師として頑張ってきたのは、自分を支えてくれる一通の手紙があるからなのです。この手紙を読む度に「もう少し頑張ってみよう」、「待っていてくれる患者さんがいる」という気持ちになり元気と勇気を頂きました。

そんな一通の手紙“私の大事な宝物”を披露したいと思います。その手紙は20代の女性で肝生検の検査をしなければならぬ患者さんでした。

(以下、手紙を抜粋します)

私は何日も前から検査がいやで仕方がなかったです。でも看護師さんが付いてくれたおかげで、なんとか乗り切ることができました。看護師さんとはもうお会いする機会はないと思うのですが・・・

一生にたった一度の出会いでしたけれど、私の心の中には死ぬまでずっと看護師さんの思い出が残っていると思います。

検査の間ずっと私を励まし続けてくれた看護師さんは、世界の中で誰よりも、私の大きな心の支えとなってくれたのは確かなのです。

あの時看護師さんが私の手を握ってくれたのでとても心強かったです。これからもたくさん患者さんの力になるようなそのままの素敵な看護師さんでいて下さい。

わたしも病気に負けないで、早く元気になれるよう頑張ります。

看護師さんありがとう。

大学ノートに書かれた手紙が今は私の心の支えとなり宝物になりました。定年まであと1年、最近の私は白衣に手を通す事が幸せです。

## 看護師を随時募集中

### 急募 看護師

“新病棟オープンに向けて看護師を増員する計画です”

☆常勤の看護師を募集しています。

☆非常勤の採血室勤務者を募集しています。

☆チームワークの良い職場で働きませんか。

♪ 復帰支援プログラムも充実しています  
♪ まずは病院見学はいかがでしょう  
♫ 随時受け付けております



勤務時間や給与等の処遇につきましてはご相談下さい。連絡をお待ちしております。

連絡先(代表) Tel 047-372-3501

内線(PHS) 6301

担当 副看護部長 高橋

### 【本当の旬はこれから！】

赤い宝石の様な輝きをもつ「イチゴ」は千葉県を代表する作物の一つで、「とちおとめ」「紅ほっぺ」「章姫」「とよのか」「あすカルビー」など種類も多く、彩りや香り、甘みや酸味を楽しめます。保存期間が短いものの、皮をむかずに食べられる手軽な果物の代表で、5月の連休くらいまでが旬です。

イチゴにはビタミンCが豊富に含まれており、たんぱく質(特にコラーゲン)の合成に大きく関係します。風邪をひいた時や予防にはビタミンCをとると良いと言われますが、寒さや風邪というストレスを防ぎ、身体の調子を整えるからです。ビタミンCは人間の体内でつくることができないため、食べ物や飲み物からとる必要があります。不足すると壊血病(かいけつびょう)という出血が止まりにくくなる病気の原因になり、鉄分の吸収も減ります。

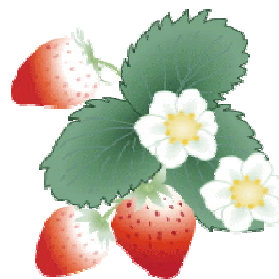
### ●簡単おいしい知恵袋

#### 〈イチゴゼリー〉

- ① イチゴ300gを洗ってからヘタをとり、砂糖50gと一緒にミキサーにかけます。
- ② ゼラチン10gを50ccの水でふやかしてから電子レンジで溶かします。
- ③ ①に②とレモン汁小さじ1杯程度をふりかけてミキサーで混ぜます。
- ④ ゼリー容器にうつしてから冷蔵庫で冷やし固めます。

イチゴ(ビタミンC)とゼラチン(コラーゲン)で簡単なデザートに仕上がります。イチゴの食感を残す場合はミキサーにかける時間を短くし、なめらかな食感を出す場合は①でこすと良いでしょう。イチゴによって甘さが異なりますので砂糖は好みにあわせて量を調整して下さい。血糖値や中性脂肪が気になる方は砂糖の代わりに低エネルギー甘味料を使用することもできます。(商品によって量や味が異なりますのでそれぞれの商品の取り扱いにあわせて下さい。)

最近のイチゴは糖度が高く、砂糖やコンデンスミルクをかけずにそのままでも甘くておいしく召し上がれます。ビタミンCは多めに摂っても尿と一緒に出てしまいますので心配はありませんが、糖分があるため食べ過ぎない様にして下さいね。



## ご寄附の受け入れ

国府台病院は、総合的機能を有する病院として地域に密着した医療サービスを提供する一方、高度専門医療の分野を肝炎・免疫疾患と位置付けし、これらを主体とした疾患の診断、調査、研究、研修を国内外に提供する役割を担っています。職員一人ひとりが職種の隔たりを取り払い患者の皆様のために結集し、そして、人にやさしい医療の理想像を求めて患者さんの健康ニーズや病気の悩みに応えられる総合医療を推進していきたいと考えています。

私たち国府台病院の運営にご理解を頂くと共に、ご支援を賜りたく存じます。

### ■頂いたご寄附の使用について

寄附の目的に従って利用させていただきます。具体的には次のとおりです。

- ・医療の提供に関すること
  - ・医療に関する調査及び研究を行うこと
  - ・医療に関する技術者の研修を行うこと
  - ・その他センター業務に附随する業務
- なお、職員の福利厚生目的には使用いたしません。

### ■ご寄附の方法

- ①管理課が担当いたします。病院職員にお尋ね頂ければ、いつでも対応いたします。  
電話(代表)047-372-3501 内線2201 管理課長



- ②「寄附申出書」を手渡し又は郵送させていただきます。  
\*用紙は国府台病院ホームページからでもダウンロード出来ます。  
<http://www.ncgmkohodai.go.jp/contribute.html>



- ③「寄附申出書」をご記入の上、ご返送又はお届け下さい。



- ④受け入れが決定しますと「寄附受入書」を送付します。



- ⑤指定の口座へお振り込み下さい。



- ⑥ご入金確認後に「寄附領収書」を送付します。



## 編集だより

編集長

### “「葛飾八幡宮（かつしか はちまんぐう）」をご紹介します

市川市八幡にある「葛飾八幡宮」は、厄除け、学業成就、子育て祈願など、地域を守る氏神さまとして地元で親しまれ、古来より源頼朝、太田道灌、徳川家康などからも崇敬されてきた由緒ある神社です。平安時代の寛平年間（889年～898年）に宇多天皇の勅願によって京都石清水八幡宮の分霊を勧請して創建した古社で、地元では「はちまんさま」の愛称で知られています。

社殿右側には、多数の幹が集まって一本の大樹のように見える「千本公孫樹」と呼ばれるとても大きな銀杏の木（推定樹齢1200年、樹高22m、周囲12m）があります。水戸光圀公も立ち寄ったと言われており、国指定天然記念物となっています。

市川市の中央部に位置する八幡（やわた）は、この「葛飾八幡宮」を中心に発展した町でこの神社が「やわた」の地名の由来となっています。神社周辺の地域は黒松に囲まれた閑静なお屋敷街としての風情が現在も残っています。

神社の前を通る国道14号線は、江戸時代にも官道として江戸と佐倉を結ぶ重要な幹線道路で街道筋は八幡宿（やわたしゅく）として栄えたということです。

2月の初卯祭は湯立て神事、宮司舞などのある祭があり、9月15日から6日間は俗に「八幡のぼろ市」と呼ばれる近郷に名高い農具市があります。

#### 〈アクセス〉

- ・JR総武線本八幡駅(市川駅の隣の駅)北口から徒歩8分
- ・京成電鉄京成八幡駅から徒歩5分



社殿



随神門



鳥居

外 来 診 療 担 当 医 師 一 覧 表

国立国際医療研究センター

国府台病院

TEL 047-372-3501(代表)

平成23年2月1日現在

診療科・曜日		月	火	水	木	金	
※6 内 科 系	内科	吉川玲欧(総合) 増井良則(総合)  柳内秀勝(糖尿・内分泌)  吉澤篤人(呼吸器)【第3】 放生雅章(呼吸器)【第2・4・5】 平野 聡(呼吸器)【第1】  森山純江(リウマチ・膠原病)  菊池 嘉(感染症) 【第2・4】午前のみ	足立洋希(総合) 森川博久(総合)  三島修一(糖尿・内分泌) 本田律子(糖尿・内分泌)  多田真奈美(腎臓疾患) 【第1・3】午前のみ  金子礼志(リウマチ・膠原病)  フットケア外来(糖尿・内分泌) 【第1・3】午後予約のみ	吉見太郎(総合)【第1・3・5】 関根慶輔(総合)【第2・4】 津田尚法(総合)  三島修一(糖尿・内分泌) 濱崎秀泰(糖尿・内分泌)  放生雅章(呼吸器)  増井良則(リウマチ・膠原病)	岡元誠子(総合)【第1・2・4・5】 田中 真(総合)【第3】 西村 崇(総合)  峯山智佳(糖尿・内分泌) 柳内秀勝(糖尿・内分泌)  矢崎博久(感染症)  小林昌史(リウマチ・膠原病)  フットケア外来(糖尿・内分泌) 【第2・4】午後予約のみ	森山純江(総合) 森川博久(総合)  三島修一(糖尿・内分泌)  水谷友紀(呼吸器)【第1・3】 竹田雄一郎(呼吸器)【第2】 小林信之(呼吸器)【第4】  金子礼志(リウマチ・膠原病)  三輪哲義(血液疾患) 【第3】午前のみ 萩原将太郎(血液疾患) 【第4】午前のみ	
	消化器科	上村直実(一般) 西村 崇(一般)  正木尚彦(肝炎・肝臓)午前のみ 青木孝彦(肝炎・肝臓)	為我井芳郎(一般) 小林正典(一般)  溝上雅史(肝炎・肝臓) 村田一素(肝炎・肝臓)	吉澤 大(一般) 交替制(小林・西村・青木(洋))  松井哲平(肝炎・肝臓) 斎藤紘昭(肝炎・肝臓)	矢田智之(一般) 青木洋一郎(一般)  今村雅俊(肝炎・肝臓) 正木尚彦(肝炎・肝臓)	為我井芳郎(一般) 小飯塚仁彦(一般)  今村雅俊(肝炎・肝臓) 伊藤清顕(肝炎・肝臓)	
	消化器科内視鏡	午前 為我井芳郎・吉澤大・矢田智之 午後 為我井芳郎・小飯塚仁彦・矢田智之・青木洋一郎・小林正典	吉澤大・矢田智之  為我井芳郎・小飯塚仁彦・吉澤大・青木洋一郎・小林正典	小飯塚仁彦・青木洋一郎・小林正典  小飯塚仁彦・青木洋一郎・小林正典	為我井芳郎・小飯塚仁彦・吉澤大・小林正典  為我井芳郎・小飯塚仁彦・青木洋一郎	上村直実・矢田智之・青木洋一郎・小林正典  為我井芳郎・小飯塚仁彦・矢田智之・小林正典	
	消化器科腹部エコー	今村雅俊・小林正典	伊藤清顕・斎藤紘昭・青木洋一郎			松井哲平	
	循環器科	板岡慶憲	出雲和秀	黄 文愷	(交代制)岡崎 修・田守唯一 原 久男	原 英彦	
	心療内科	初診 富田吉敏(午前)(予約制) 再診 石川俊男・岩村康子 大川昭宏(午前) (午後) 奥泉裕和・苅部正巳(隔週)	石川俊男・田村奈穂  富田吉敏	田村奈穂(午前)(予約制)  岩村康子(午後)  安藤哲也(隔週)	石川俊男(午前)(予約制)  知場奈津子【第1・3】  富田吉敏	石川俊男(午後) 岩村康子  田村奈穂	
	神経内科	初診 本田和弘(予約制) 再診 本田和弘(午後・予約のみ) 竹内壯介【第3】(午前・予約のみ)	休診		本田和弘(予約制) 本田和弘(午後・予約のみ)	休診	
※3 外 科 系	外科	遠藤大昌	飯塚一郎	日野原千速 青柳信嘉(エコー) 青柳信嘉(内視鏡)【第1・3】	青柳信嘉 日野原千速(AMエコー) 飯塚一郎(内視鏡)	交替制	
	消化器外科	遠藤大昌	飯塚一郎	日野原千速	青柳信嘉	交替制	
	肝臓・胆嚢・膵臓外科				青柳信嘉		
	乳腺外科	遠藤大昌		日野原千速		交替制	
	内視鏡外科	遠藤大昌	飯塚一郎	日野原千速	青柳信嘉		
	ヘルニア外来			日野原千速(12:00~15:30)			
	ストーマ外来(完全予約制)		飯塚一郎		飯塚一郎(第2・4)		
	脳神経外科	岡田 仁	香川賢司	岡田 仁(予約制)	岡田 仁	岡田 仁	
	整形外科	新井 元	手術日		新井 元	橋本 健	新井 元(予約再診のみ)
	皮膚科	佐久間正寛	佐久間正寛	佐久間正寛・東竹逸子	佐久間正寛	佐久間正寛	
	泌尿器科	浅野桐子	加納英人	長濱克志	長濱克志	加納英人	
	眼科	初診 山崎廣子 再診 山崎廣子・PM 柴 玉珠(予約制)	山崎廣子・柴 玉珠	手術日		山崎廣子・柴 玉珠	柴 玉珠
養護外来					PM山崎廣子(第2・4 予約制)		
耳鼻咽喉科	原 治	原 治	原 治	原 治	原 治		
麻酔・ペインクリニック	齊藤 理(予約制)	齊藤 理(予約制)	齊藤 理(予約制)	休診		齊藤 理(予約制)	
※4 精 神 科	初診	第1・3・5曜日 吉田衣美 第2・4曜日 榎本哲郎	水田康彦 伊藤寿彦	中島常夫 伊藤寿彦	榎谷精一郎 安井玲子	早川達郎 榎重順康	
	再診	①診 安井玲子	榎本哲郎	榎本哲郎	榎重順康	佐竹直子	芦澤裕子
		②診 伊藤寿彦	芦澤裕子	中野知恵子	水田康彦	中野知恵子	伊藤寿彦
		③診 早川達郎	安井玲子	早川達郎	榎重順康		
		④診 塚田和美	中島常夫	水田康彦		PM早川達郎 【睡眠外来のみ】	中島常夫
		⑤診	榎谷精一郎			榎本哲郎	塚田和美
		⑥診 児童精神科	PM 特診 伊藤順一郎	特診 伊藤順一郎	AM 児童精神科/PM 大西豊史	牧野和紀	榎谷精一郎
		⑦診 児童精神科	児童精神科	児童精神科	AM 児童精神科/PM 大西豊史	AM 大西豊史/PM 岩垂喜貴	児童精神科
特診(予約制)	PM 芦澤裕子	AM 精神科予診	AM 精神科予診				
睡眠障害専門外来 (完全予約制)	初診予約は12名/月まで。電話予約が必要 ※5			PM早川達郎(再診のみ)	PM 早川達郎	交代制	
児童精神科	初診 毎週金曜日 対象者 中学生(15歳)以下 電話予約(9:30~17:00)が必要					予約制	
(予約制)再診	渡部京太・小平雅基・宇佐美政英 岩垂喜貴・黒江美穂子	渡部京太・小平雅基・宇佐美政英 勝見千晶	齊藤万比古・宇佐美政英・渡部京太 黒江美穂子・大西豊史	齊藤万比古・小平雅基・岩垂喜貴 大西豊史・松田久実	渡部京太・宇佐美政英 牧野和紀		
放射線科	放射線診断 前田浩喜 放射線治療	前田浩喜	前田浩喜	前田浩喜	前田浩喜	前田浩喜	

(注) 1. 外科及び整形外科の担当医は、手術などの都合で変更(交替)になる場合があります。

\* 初診受付時間: 8時00分~11時

\* 再診受付時間: 8時00分~11時

※1 心療内科: 初診は完全予約制 電話受付時間は平日16~17時まで、又は平日心療内科外来窓口にて受付可。

(心療内科外来に半年以上来院していない場合は、再診ではなく初診となります。)

※2 神経内科: 初診・再診ともに完全予約制 電話受付時間は平日16~17時 神経内科外来にて受付可。

※3 外科: ストーマ外来は完全予約制で外科外来窓口にて受付可。

※4 精神科: 初診は1日4名迄+予約枠2名

※お知らせ※: 11月より、精神科初診受付は、1日4名迄+予約枠2名となりました。

※5 睡眠障害専門外来の初診予約受付は電話のみ(047-372-3501)、当月の予約は前の月の平日1日16時から受付可。

(1日が土日祝日の場合は翌平日となります)

※6 フットケア外来は完全予約制です。診察時間は14時45分~15時15分。診察場所は内科外来第1診察室になります。